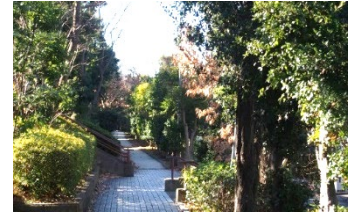


● 公園・緑地・漁港

金沢区の旧海岸線沿いの住宅地約(53ha)と幹線道路・工場団地の間に緩衝緑地(金沢緑地・グリーンベルト15ha)、水際線緑地9ha、海の公園(46ha)、八景島(24ha)の「緑のネットワーク」が計画された。

海の公園及び八景島は、最終的に1978年(昭和53年)の「海の公園新基本構想」に基づき埋め立てられ、1986年(昭和61年)10月砂浜のある陸側を「海の公園」、島部を「八景島」と町名が決定された。海の公園海水浴場は、1980年(昭和55年)の暫定開業、1988年(昭和63年)正式オープンし八景島は1998年(平成5年)5月にテーマパーク「横浜・八景島シーパラダイス」として開園した。

また柴漁港は、海の公園と3号地の間に再整備され、金沢漁港は海の公園の南西端に移転した。



金沢緑地・グリーンベルト



水際線緑地



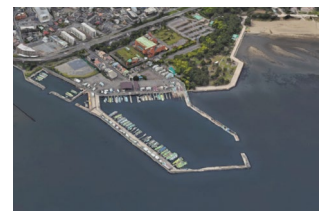
海の公園



横浜・八景島シーパラダイス



柴漁港



金沢漁港

● 交通網

住宅地区の住民や工場従業員の通勤、市立大学病院など公共施設への移動手段として、根岸線と接続する新杉田駅と京浜急行金沢八景駅を結ぶ新交通システム金沢シーサイドラインが1984年(昭和59年)に着工し、1989年(平成元年)に開業した。

並木北駅から海の公園南口駅にかけての9駅が埋立区域内に設けられており、幸浦2丁目に横浜シーサイドラインの車両基地が建設されている。

また、埋立地の中央を南北に走る国道357号線及び首都高速湾岸線が、並木ICから横浜横須賀道路(金沢支線)へ接続、2020年(令和2年)には、横浜環状南線から横浜湘南道路、東名高速道路に至るルートが完成予定であり、全国への陸上輸送路がさらに充実する。



横浜シーサイドライン
(旧名:金沢シーサイドライン)



産業団地付近の交通網

● 金沢区内の産業団体

1983年(昭和58年)3月 金沢区内の代表する産業団体である横浜市金沢団地協同組合、(一社)横浜金沢産業連絡協議会及び金沢中央事業会は、(一社)横浜市工業会連合会の設立を機に、団体相互の連携と協調の下に、横浜市の産業発展に寄与するため「金沢区工業団体連絡会」を設立した。

設立後約35年が経過した2018年(平成30年)6月、操業環境や産業構造の変化により、金沢区内陸部の金沢中央事業会が解散したため、金沢区工業団体連絡会の構成団体が臨海部の2団体となった。

両団体は、臨海部に位置し隣接した団体であり、2017年(平成29年)12月「LINKAI横浜金沢」の地域名称を定める等、極めて密接に連携した活動に取り組んでいることから、事務手続きの簡素化及び両団体が、個々で(一社)横浜市工業団体連合会へ積極的な協力を図るために、2019年(令和元年)6月に発展的な展望に基づき解散した。



横浜市金沢団地協同組合



(一社)横浜金沢産業連絡協議会